

MIS011-01

会場: 304

時間: 5月24日09:00-09:15

なぜ、第四紀が残って第一紀・第二紀・第三紀がないのか？

Primary, Secondary and Tertiary have gone and Quaternary has been left

矢島 道子<sup>1\*</sup>

Michiko Yajima<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>地質情報整備・活用機構

<sup>1</sup>NPO-GUPI

絶対的な時間がまったくわからなかった頃、地球の歴史を人々はどのようにやって編んできたのだろうか。西洋では16・17世紀の頃から、「私たちの住んでいる地球はどうやってできたのだろうか」と、近くにある山々や崖で見られる地層などをもとに地球の理論を考えた。哲学者デカルト（1596-1650）は『哲学の原理』（1644）で地球の理論を説いた。その後、ステノ（1638-1686）、ライプニッツ（1646-1716）、ビュフォン（1707-1788）とさまざまな地球の理論が唱えられた。18世紀ころには、「化石の何も入っていない岩石がまずあり、それが削られて堆積してできた、化石の含まれる地層があり、そのまた上に私たちの住む地面がある」と考えた。最初の岩石はprimary（始源紀と訳されることが多い、第一紀の意味になる）、最初の地層はsecondary（第二紀）、次がtertiary（第三紀）と呼ばれていた。

19世紀になると、あるところでは、この3つでうまく説明できても、他のところではうまく説明できないので、第一紀、第二紀は使われなくなった（それでもダーウィンの『種の起原』には第二紀がまだ使われている）。第一紀や第二紀ではなく、岩石の特徴がはっきりしている石炭紀や白亜紀が使われるようになった。そして石炭層の上や下に何があるか、白亜の上や下に何があるかと、地質学者の必死の調査が続いた。逆に第三紀の地層の上にもうひとつ地層が載っていると、第四紀も提唱された。こうやって少しずつ、現代の地質時代区分に近づいてきた。

キーワード: 第一紀, 第二紀, 第三紀, 第四紀

Keywords: Primary, Secondary, Tertiary, Quaternary